



# 会報 JAMT

JAPANESE ASSOCIATION OF MEDICAL TECHNOLOGISTS

発行所  
 財団法人日本臨床衛生検査技師会  
 発行責任者 小崎繁昭  
 編集責任者 蒲池正次、小澤正剛、下田勝二、  
 山城元俊、及川雅寛、谷口薫、  
 高田敦也  
 〒143-0016 東京都大田区大森北4丁目10番7号  
 TEL (03) 3768-4722 FAX (03) 3768-6722  
 ホームページ <http://www.jamt.or.jp>

## 平成 21 年度 事業総括提案＜概略＞

平成 21 年度は非常に各企業等の経済状況がよくないということで、会に対するいろいろな支援などが従来どおり認められるというような状況ではございません。しかし、何とかして今まで築き上げた日臨技の事業を後退させるものではなく、むしろ積極的な事業の展開をしてみたいと考えております。

新公益社団法人取得に向けては、各団体が二の足を踏んでいる状況であります。いろいろな医療関連団体の動向を見ながら、慎重にこれを進めてまいりたいと考えております。先月、検討委員会中間経過を理事会で聞きましたが、なかなかこれからの新しい時代に向けてのグランドデザインが描けないような状況もあるわけです。そうはいっても、歴史あるこの会が今までどおり国民に向けた事業展開をしていかなければならないと考えております。そのためにも、やはり公益社団法人に向けた運動を進めてまいりたいということで、各種公開講演、エイズ撲滅、AEDの講習会と国民に向けた運動をさらに進めてまいりたいと考えております。予算措置もこのようにしてありますが、これは各都道府県技師会の皆さんの協力なくしてはできない事業であり、今まで以上に国民に対するアピールをしてみたいと考えております。

また、公益社団法人に向けて少しハードルが高いのは、公益目的事業が 50% を超えることということに大きな重点が置かれるわけです。残念ながら私も私どもの行っている今の事業の中では、明らかに公益性が認められない事業もあります。それは、収益もそうですが、会誌についても一般に公開していないということもあります。なんらかの形へ移行して、公益目的の 50% をクリアすることを考えねばならないと考えております。

いろいろな経験者からそういう事業展開をするための知恵を受けておりますが、どれがいいのかまだ分かっておりません。いずれにしても、公益目的以外の事業については明らかに移行しなければならないわけです。例えば、日医に日医総研が、あるいは看護協会が出版を分けているなど、各団体の知恵を拝借しながら進めていかなければならないと考えております。

事業立ち上げの節は、各都道府県のご協力を仰ぎたいと考えているところでございます。まだ具体的に申し上げる段階ではございませんが、何らかの形でそれを実行するような事業会社を立ち上げなきゃいけないということについては、委員会の中では大まかな理解が得られていると考えています。

それから、臨床検査の根幹である臨床検査データの標準化については、3 カ年計画の 2 年を終わり、ほぼこれについては非常にいいデータが出ているということです。後ほど、担当の者からご報告申し上げますが、3 年以降も続けてやらなければいけない事業だと思います。3 年目の総括として、4 年目にはどのような事業を進めていくかということについては、次回皆さんにご相談申し上げたいと考えております。やっぱりこれだけの標準化を世界の中でやっている国というのはございませんし、ぜひ私どもは全都道

府県の協力を得ながら、データの標準化について進めてまいりたいと考えております。

また、精度管理については、もう既に大体めどがついてはおりますが、まだしかし完全なところまで行っていないということで、これについてもかなり力を入れてまいりたいと考えております。

それから、生涯教育研修制度につきましては、去年の時点では今まで二千数百名から約 8,000 名にまで履修率が上がったということで、大変喜んでおります。ただ、5 万人の数からすると、決して 7,000、8,000 人の履修率で満足してはいけないうと考えております。少なくとも 7 割、8 割が取れるような履修率、大体各都道府県、日臨技等を含めて、年間 5,000 回からの研修会をやっているわけで、そういう中で取れないというのはシステムに問題があるのではないかとということで、去年少し改正しました。ぜひ各都道府県の技師会に帰りましたら、履修率向上に向けて努力していただきたいと思っております。

また、遠くてできない、あるいは家族を持って子どもを育てながらできないという方については、e-ラーニング等を含めてきめ細かな履修率向上に努めてまいりたいと考えております。これはすぐにでもできるような状態になると思っておりますので、ぜひ各都道府県の成功された方々の意見を踏まえて、次のステップに進むということになっております。ぜひご協力賜りたいと思っております。

また、学会であります。今年度はアジアアセアン学会の第 3 回がパシフィコ横浜で開催されるということです。これは、日本の早田先生の時代にアセアンに呼びかけて作った団体であります。3 回目にして日本に回ってきましたので、ぜひご協力を賜りたいと考えております。

当日、皇室の行幸啓をお願いしておりましたが、行事があるということで皇室が出られなくなりましたけれども、今日配付した資料の中に当日の特別講演があります。これはまさにこれからの臨床検査、先端の講演でありますので、ぜひ皆様もお聞き願いたいというふうに思っております。

「再生医療における現状と未来」ということで、東京大学副学長の浅島先生にお願いしてあります。非常にご多忙な先生で、なかなか時間が取れなかったのですが、そういうことであれば快く受けいただきました。先生はノーベル賞候補でもあるぐらいの先生だそうです。ぜひお聞きいただきたいと思っております。また、「遺伝子チップの先端技術」ということで、東芝病院の三代先生にもお願いしてあります。2 題とも日本を代表する演題ということで、ぜひ皆さんにご参加いただきたいというふうに思っております。

以上、日臨技としては、私は幸いにしてほとんど全国の技師会を回りましたので、会員の意見、あるいは要望等を聞きまして、予算の中にもそれを反映して組んでおります。ぜひ皆さんご審議いただきたいと思っております。

※ その他、質疑応答などについてはホームページへ掲載予定

## 社団法人日本臨床衛生検査技師会

### 平成 20 年度 第 2 回定期総会＜予算＞ 終了！

平成 20 年度第 2 回定期総会が、平成 21 年 3 月 28 日(土)午前 9 時から、東急ホテルズ大森東急イン 5 階 7 ホールにおいて開催された。

この総会は、平成 21 年度の事業方針並びに予算案を審議する重要な総会であったが、提出議案は全て承認された。今後、この方針に基づき、会員の総意と期待に沿うかたちでの事業展開がなされることとなる。